

第2期第3回地域包括ケア検討会議（書面会議）委員意見等及び回答一覧

番号	資料番号	ページ	意見等の内容	意見等への回答
1	2	slide10～	・地域包括ケアシステムの主事業の一つである介護予防・日常生活支援総合事業における訪問型サービスB・C・D、通所型サービスBの今後の実施必要性、優先度、可能性はどうか？	今年度からの3年間、愛知県からの事業委託を受けて日進市高齢者移動支援推進事業を実施しており、この中で訪問型サービスDによる補助金制度の検討も行う予定です。また、住民主体の生活支援（ワンコインサービス）やつどいの場も増えており、訪問型及び通所型サービスBによる補助金制度の検討を進めてまいります。
2	2	slide38～	・在宅医療・介護連携推進事業と地域ケア会議の充実が徐々に進みつつあり、今後の更なる拡充に期待する。	日進市在宅医療・介護連携支援センター（やまびこ日進）や地域包括支援センターと連携しながら、事業の充実に努めます。
3	3	P1～	・第7期プランの目標値と各年度の実績値の経年推移が明示されており、分かり易い資料となっている。既に令和2年度の目標値を上回った指標は更に充実へ、下回った指標はその要因を分析し、目標値の変更を含めて再検討して頂きたい。	目標値に達していない取組については、令和2年度末までに目標を達成できるよう取り組んでまいります。 目標値を達成している取組については、現在の取り組みを継続するとともに、第8期計画において更なる目標を設定するよう検討してまいります。
4	5 7	P16～	・第8期（令和3～5年）の計画期間において、改正社会福祉法や国の指針のように、本市が「2025・2040年を見据えたサービス基盤、人的基盤の整備」を掲げない理由は何か？	国の指針を参考に、本市における2025年・2040年までの将来人口推計などを前提として、第8期計画の中でサービス基盤、人的基盤についても検討してまいります。
5	7	基本目標1 基本目標1	・医療と介護の連携において、管理栄養士との連携が最も低いことから、栄養ケアステーションの活用を一層図られたい。	やまびこ日進と連携して、医療機関・介護サービス事象所への栄養ケアステーションの周知や利用促進を図ってまいります。
6	7	基本目標1 基本目標1	・本市における「つどいの場」事業は、第7期計画で各種実施個所数は目標値を上回るものの、アンケートから利用者は18%にとどまっている。地域包括ケアシステムの主要事業の一つであり、今後の施設や助成の拡大を含めて、更なる充実に努められたい。	社会福祉協議会や生活支援コーディネーターと連携しながら、つどいの場の周知や立ち上げ支援を継続してまいります。また、高齢者移動支援推進事業によるつどいの場への移動手段の確保や訪問型サービスB等による補助制度の検討を進めてまいります。
7	7	基本目標5	・複雑化・複合化する支援ニーズに対応する包括的な支援体制の構築は急務であり、地域包括支援センターにおける専門職の拡充は、地域共生社会の実現に向けた重要事項と考える。	日常生活圏域ごとの高齢者人口の増加や国の動向を踏まえながら、地域包括支援センターの機能強化や重層的支援体制整備について検討してまいります。
8	その他		・今回の新型コロナウイルス感染症の影響による各種保健・医療・福祉施策における実績の低迷は避けられないものと予想される。そのような中においても、第8期計画では、第7期を上回り実効性のある多くの施策が盛り込まれ、地域包括ケアシステムの充実が一層図られることを強く要望する。	新型コロナウイルス感染症の影響で、令和元年度末以降各種事業が実施できない状況が続いておりますが、従来どおりのやり方にとらわれることなく、新しい生活様式に対応した事業の実施方法を検討し、地域包括ケアの取り組みが停滞することがないよう努めてまいります。
9	2 6		少子高齢化が進む中、戦後の第1次ベビーブームの方々2025年頃から後期高齢者となり、認知症や要支援・要介護者も増加すると考えられます。 介護予防策であるにしん体操、ほっとカフェ、ぷらっとホームなどとても良い取り組みであると思いますが、そこに参加するための移動手段もしっかり考えていく必要があると思います。	今年度からの3年間、愛知県からの事業委託を受けて日進市高齢者移動支援推進事業を実施しており、市としても住民が主体となった移動支援の取り組みを支援してまいります。
10	2 6		また、介護者家族の支援も家族がかかえる悩み、問題点などオープンに話せる場所の提供も考えていかなければと考えます。Nカフェなど気楽に会話ができる場所は良い試みであると思います。	介護者のつどいや認知症家族交流会といった家族介護者同士が互いに悩みを話したり、相談したりできる場を継続して開催してまいります。また、気軽に話しができるNカフェについても開催方法を工夫してまいります。

第2期第3回地域包括ケア検討会議（書面会議）委員意見等及び回答一覧

番号	資料番号	ページ	意見等の内容	意見等への回答
11	26		香久山地区では2年前から「まちづくり協議会」が発足、その一つとして「ワンコインサービス」事業を立ち上げました。地域の高齢者、妊婦さんなど毎月5、6件の利用があります。サービス提供者の方々とより充実したサービスができるよう何度も協議を重ね、今ではリピーターもあり、地域の方々に定着しつつ、喜び感謝されるまでになってきました。	五色園地区や香久山地区におけるワンコインサービスがモデルとなって、他地区への広がりも始まっております。市としても、訪問型サービスB等による補助制度の検討を進めてまいります。
12	1	2	健やかにっしんヘルピーネットおよびやまびこ日進事業について、地域住民にほとんど知られておりません。今後の医療・介護連携の充実に向けて、市民が大いに期待している内容のものであり、PR,情報提供も要望します。	健やかにっしんヘルピーネット（電子@連絡帳）ややまびこ日進は、医療機関と介護サービス事業所との連携を進めるためのものなので、市民の方が直接関係する機会はあまりありませんが、在宅医療・介護に関する周知啓発の役割も担っていることから、講演会の機会等をとらえて周知に努めます。
13	2	24	地域包括支援センターの設置運営状況について 西部地域包括支援センターについて、少ない専門職職員で努力して頂いていますが、事業所のロケーションの事情か、多くの地区の住民に身近さがなく、なじみがわからない状況です。地区福祉センターなどを利用して、もう少し地域へのPRと相談利用などが出来ると良いと思います。	令和2年1～2月に実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、地域包括支援センターについて、「事業内容まで知っている」「名前だけは知っている」方の割合は、54.1%となっています。前回（3年前）の調査と比較して、3.5%増加しており、地域包括支援センターの認知度は着実に高くなっております。 今後も、高齢者に関する身近な相談場所として、引き続き周知に努めてまいります。
14	2	28	生活支援コーディネーターの活動状況について、協議体会議の開催、支え合い新聞の発行、回覧など地域住民へのPR、情報提供がまだまだと感じます。	新型コロナウイルス感染症の影響で例年に比べて地域に出向いて説明する機会が少なくなっており、活動に制約が出ておりますが、各区に対して支え合い新聞の回覧を依頼したり、地域支え合い円卓会議の動画を作成するなど、PRに努めているところです。
15	2	37	地域における認知症見守り体制の構築について、五色園地区の例、STEP1,STEP2,STEP3はどの程度有効に実施されているのでしょうか。他地区においても標準モデルとして活用できるのでしょうか。	五色園地区では毎年度認知症高齢者等行方不明時捜索模擬訓練を開催し、構築した連絡体制の確認を行っています（令和2年度は中止）。他地区においも同様の連絡体制を検討したいという相談があれば、その地区に合った連絡体制の構築を市も一緒に検討してまいります。
16	2	49~52	個別地域ケア会議が令和元年度に中部10、東部9、西部5件の実績が出ていますが、まだまだ地域での認知、定着レベルが十分ではないように思うことから、それぞれの地域で地域全体の介護問題の掘り起こし、改善にどの程度寄与していると考えていますか。	地域包括支援センターごとに開催回数に差はありますが、いずれの地区においても地域ケア会議を通じて、地域共通の課題抽出に結び付いているものと考えます。
17	6	28	認知症相談窓口の認知度が28.9%と低いように、地域包括支援センターが地域住民に身近なものとなっていないので改善を要します。	高齢者に関する身近な相談場所として、引き続き周知に努めてまいります。
18	6	31	市の高齢者福祉施策に望むこととして「交通手段の整備など高齢者の足の確保」、「地域医療体制の充実」は 全ての高齢者の在宅生活の継続のために極めて重要です。望ましい目標に向けて、しっかりとした取り組みを要望します。	今年度からの3年間、愛知県からの事業委託を受けて日進市高齢者移動支援推進事業を実施しており、市としても住民が主体となった移動支援の取り組みを支援してまいります。また、やまびこ日進と連携して、在宅医療・介護連携の充実や住民への周知啓発に努めてまいります。
19	6	35	介護に係る、訪問介護、短期入所生活介護などの供給不足および人材不足改善のためどのような施策、工夫ができるか、検討し、コンセンサスづくりを期待します。	訪問介護は特に人材の確保のための方策が必要と考えます。第8期計画において具体的な施策を検討したいと思います。

第2期第3回地域包括ケア検討会議（書面会議）委員意見等及び回答一覧

番号	資料番号	ページ	意見等の内容	意見等への回答
20	6	36	高齢者がよく利用していないし不足していると感じている食事の提供、ちょっとした買い物、ゴミ出し、通院・外出の手助け、安否確認などは、地域住民による助け合いでかなりの程度改善できるように思われるので、行政のアドバイスの下に地域に見合った形で進むことが望まれます。	五色園地区や香久山地区におけるワンコインサービスがモデルとなって、他地区への広がりも始まっております。市としても、訪問型サービスB等による補助制度の検討を進めてまいります。
21	6	37~38	医療と介護の連携は高齢者の生活の安全と安心にとって、極めて重要な要素ですので、行政指導で強力に進めて頂き、協力医師、医療機関などについての情報提供も要望します。	やまびこ日進と連携して、在宅医療・介護連携の充実や住民への周知啓発に努めてまいります。
22	7	1	「つどいの場」の設置推進の具体的事例としてほっとカフェやぷらっと帆ホームの設置数が増えており、高齢者のつどいの場として、地区ごとに、定着しつつあり高く評価します。しかしながら、今後の在宅高齢者の増加時代に対応するために、いろいろな工夫が必要なように思います。例えば開催頻度について、現状は多くの場合月2回ほど各2~3時間程度の運営であるため、利用者も限定的で、地域の高齢者全体に利用が、広がっていません。現在の利用施設での開催回数大幅増加が難しい場合、開催場所の見直しも含め、検討するとよいように思います。	つどいの場の開催については、運営を担う住民の方にとって無理のない範囲で、継続していただくことが大切だと考えています。社会福祉協議会や生活支援コーディネーターと連携しながら、つどいの場の周知や立ち上げ支援を継続してまいります。また、高齢者移動支援推進事業によるつどいの場への移動手段的確保や訪問型サービスB等による補助制度の検討を進めてまいります。
23	7	1	在宅医療・介護連携の推進について早急な整備を要望します。高齢者の住まいと生活支援の一体的な実施について、地域の見守り体制の醸成と活用も重要です。	やまびこ日進と連携して、在宅医療・介護連携の充実や住民への周知啓発に努めてまいります。五色園地区のような見守り体制について、他地区においも同様の連絡体制を検討したいという相談があれば、その地区に合った連絡体制の構築を市も一緒に検討してまいります。
24	7	1~2	地域包括支援センターの体制充実による機能強化と地域への浸透、認知度アップを要望します。その場合、民生委員、自治会組織、老人クラブなど地域支援組織との連携を十分に活用していただきたい。	日常生活圏域ごとの高齢者人口の増加や国の動向を踏まえながら、地域包括支援センターの機能強化について検討してまいります。また、高齢者に関する身近な相談場所として、引き続き周知に努めてまいります。 地区ケア会議や出前講座を活用した地域支援組織との連携についても継続してまいります。
25	7	2	基本目標3、4、5共通で、高齢者福祉施設を居住地区に近いところにも設置することにより、地域の元気な高齢者をヘルパー人材として活用できるのではないかと。	介護保険における施設サービスや有料老人ホーム等の整備は、高齢者人口や高齢化率の地区別分布を参考に、必要とする地区に行くことが理想的ではありますが、現状としては、難しい面もあります。地域の元気な高齢者の登用のご意見は参考にさせていただきます。訪問型サービスA事業所で働く生活支援サポーター養成講座を開催しており、高齢者の方への周知についても検討してまいります。また、日進市地域支援ボランティア事業（おたっしやボランティア事業）を通じて、高齢福祉施設においてボランティアとして活躍いただいているところです。
26	7	3	基本目標5— 2、3、4、その他について、要介護認定、ケアプラン、介護給付の基準などの見える化と理解普及を要望します。また介護職場の魅力発信、イメージ刷新の取り組みについて基準以上への指導による、各施設のレベルアップを要望します。	ゆめプランに記載する介護保険事業計画部分には要介護認定その他サービス量の推計値が記載されますが、見やすい・わかりやすい表現により、見える化と理解普及に努めます。また各施設のレベルアップについては、尾三地区広域体制による実地指導等により実現を図ります。

第2期第3回地域包括ケア検討会議（書面会議）委員意見等及び回答一覧

番号	資料番号	ページ	意見等の内容	意見等への回答
27	2 3 4		地域包括ケアで幅広い福祉分野を網羅する活動、改めて大変なことだと実感します。	地域包括ケアシステムの構築は、医療・介護の専門職や区・自治会や民生委員、老人クラブなどの地域関係者、市や社会福祉協議会など多くの関係者が連携することが不可欠ですので、引き続き関係する皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。
28	6		特ににっしん高齢者ゆめプラン（日進市高齢者福祉計画・介護保険事業計画）、現状分析・課題整理を、興味を持って拝読いたしました	-
29	2 5 7		資料2、資料5、資料7では具体的活動（手段）を丁寧に記していますが、その前提となっている目的（理念に基づく具体値）との結びつきが弱い。 それは基本理念（例えば「いつまでも健康でいられるまちを目指します」…）が数値化していないから曖昧となっている。認知症発生率を〇〇%以下とか、住民満足度〇〇%以上、介護保険の使いかた指標、…など。 指標が正しいかどうかは、PDCAを回すときの検討事項になるので、仮目標でいいと思います新たな指標（介護者指数、認知者数指数）を作ってもいい。この指標がないと、どの程度改善しているか、「見える化」しにくい。	第8期計画に基本理念と指標の設定については、例えば地区別の要介護認定率など、進捗管理方法を検討する際に合わせて検討してまいります。
30	7		特に資料7での基本目標の記述がもう少し、数値化出来たらと考えます。PDCAが回しやすく、ポイントを見逃さなくなると考えます。	第8期計画に基本理念と指標の設定については、進捗管理方法を検討する際に合わせて検討してまいります。
31	2	25	各包括の運営状況から読み取れる地域特性による包括の取り組みが大切であると思う。	地域包括支援センター運営方針において重点目標を定めるなど、地域包括支援センターと協力しながら、特色のある取り組みを進めてまいります。
32	6	4	市の後期高齢者の割合が高くなっているのはどうしてか？ 後期高齢者の割合が高いということは、地域包括ケアを考えるに当たり、どのように影響してくるのか知りたい。	日進市では昭和40年代に住宅開発が進み、転入による人口増加が続きました。40年以上が経過し、当時転入された方の多くが後期高齢者となる年齢になったことが一因と考えます。 後期高齢者の増加により、介護保険サービス・総合事業の利用者や認知症等高齢者が相対的に増加し、給付・事業費や専門機関への相談や見守りニーズなどが増加していくことが想定されます。一方で、現役世代の人口は増加しないため、担い手不足や家族介護者への負担の増加などが懸念されます。
33	6	19	地域密着型サービスの実績が低い、なぜか。	全体的に計画値を下回っていますが特に地域密着型通所介護の給付減が目立つのは、事業者の廃止等の要因も考えられます。いずれにしましても、認知症グループホーム、小規模多機能の活用が第8期の課題ととらえます。
34	6	35	アンケート結果から、不足として感じている居宅サービスについて、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」や「夜間対応型訪問介護」があるが、実際のニーズはあるのか。	定期巡回は、本市に1事業所があり、計画値どおり給付実績があります。夜間対応型は事業者そのものがない状況です。
35	7		介護予防・日常生活支援総合事業の推進 ・利用者にとっても、保険者にとってもお金がかかりすぎない、生活支援サービスを作ってもらいたい。	五色園地区や香久山地区におけるワンコインサービスがモデルとなって、他地区への広がりも始まっております。市としても、訪問型サービスB等による補助制度の検討を進めてまいります。

第2期第3回地域包括ケア検討会議（書面会議）委員意見等及び回答一覧

番号	資料番号	ページ	意見等の内容	意見等への回答
36	7	介護予防・日常生活支援総合事業の推進	・生活支援サービスの人材育成を早急に真剣に取り組んでいただきたい。	訪問型サービスA事業所で働く生活支援サポーター養成講座を開催して人材育成に取り組んでいますが、事業所とのマッチングなどの課題解消に努めてまいります。
37	7	介護予防・日常生活支援総合事業の推進	・C型のサービス事業所を増やせないか。	他市町村の取組事例も参考にしながら、実施事業者の拡大について検討してまいります。
38	2	51	「地域ケア会議の開催状況」について 「地域課題の把握」「地域づくり」「資源開発」への展開があいまいという点について、市からのアプローチも不足しているのではないかと。市としても参加のみで終わらず、後々の展開についてフォロー体制を検討いただきたい。	昨年度、地域包括支援センター主任ケアマネ部会において、地域ケア会議における「地域課題の把握」等への展開が明確になるよう会議資料の見直しを行ったところです。引き続き、地域ケア会議の進め方について、地域包括支援センターと協力しながら検討してまいります。 また、各地域包括支援センターにおいても、引き続き個別地域ケア会議の開催を進めていただきたいと考えます。
39	2	24	地域包括支援センターの設置運営状況の部分であるが、安否確認についての項目等があるが、一人暮らし高齢者については、高齢者ゆめプランの計画の中でどの部分に反映されているかお聞きしたい。	基本目標3「地域で支え合えるまちを目指します」のうち、（1）多様な主体の参画と育成支援や（2）身近な地域における見守り・交流機会の充実、に位置づけられます。
40	6	22,27	介護予防への取り組みについて P22のニーズ調査でも交通手段などの課題が挙がっている。介護予防の体操スポット等、車を処分した方などが通いやすく又、送迎など含めた取り組みが必要かと思えます。	高齢者移動支援推進事業による介護予防の場やつどいの場への移動手段の確保や訪問型サービスB等による補助制度の検討を進めてまいります。
41	6	36	⑤インフォーマルサービスの活用について 市の高齢福祉サービスの配食サービスはここに含まれているか？（利用率が高い為）	アンケート調査の選択肢では「食事の提供（会食・配食など）」となっており、高齢福祉サービスの配食サービスも含むかどうかは明記しておりません。
42	6	36	⑥高齢者虐待について 担当している要介護者で虐待を受けている人は16.7%であるが、地域包括支援センターと行政は関わっているケースか？	「いる」とお答えの方について、相談先を訪ねたところ「相談していない」との回答は0件であったため、行政や地域包括支援センターなどの相談機関につながっているものと考えます。 （相談先としては、地域包括支援センターが80.0%、市役所が40.0%（複数回答）などとなっています）
43	7	基本目標1（2）	介護予防・日常生活総合事業の推進 市町村の判断により、要介護者が総合事業の対象となり得る事、総合事業を利用する際の給付と事業所組み合わせ合わせた適切なケアマネジメントについて 現状、訪問介護等が不足している。今後進めていくにあたり、供給等のバランス等十分調査の上、対策を取った上で進めていく必要があると考えます。	本市の訪問介護事業所の給付状況を分析し、第8期に地域に根差した事業所の在り方を含めて検討してまいります。 また、訪問型サービスA事業所で働く生活支援サポーター養成講座を開催して人材育成に取り組んでいますが、事業所とのマッチングなどの課題解消に努めてまいります。

第2期第3回地域包括ケア検討会議（書面会議）委員意見等及び回答一覧

番号	資料番号	ページ	意見等の内容	意見等への回答
44	7	基本目標2 (3)	地域包括支援センターの機能強化について 様々な役割が地域包括支援センターに求められています。その中で行政としてどの部分に重点をおいて取り組んでいくか、各地域ごとの包括の取り組みを市が把握されて、地域包括支援センターと協議の上進める必要があると考えます。	地域包括支援センター運営方針において重点目標を定めるなど、地域包括支援センターと協力しながら、特色のある取り組みを進めてまいります。 また、地域共生社会の実現に向け、地域包括支援センターの機能強化や重層的支援体制整備について検討してまいります。
45	2	31~ 39~ 47~	認知症施策等、在宅医療・介護連携推進事業及び地域ケア会議の充実について、来年度中間見直し予定の医療圏保健医療計画との整合性を図ってください（第7章在宅医療対策及び第9章高齢者保健医療福祉対策）	愛知県瀬戸保健所等とも見直しの内容について情報共有し、第8期計画の策定に当たっては整合性を図るよう努めます。
46	6	12~ 14	3 介護保険事業の状況の施設サービスについて、来年度中間見直し予定の医療圏保健医療計画との整合性を図ってください	愛知県の計画の進捗状況もありますが、施設サービス量の推計見込み、医療・介護連携や地域包括ケアの構築など、関連部分の調整を図りたいと考えています。
47	6	1~16	図表の近隣市町との比較について、日進市と医療圏域・福祉圏域が異なる「みよし市」の数値が掲載されており、同じ圏域内の「豊明市」が掲載されていないのは、何か理由がありますか？ 豊明市は、日進市と隣接していませんが、医療（介護）連携上のつながりは、みよし市より高いと思われるのでお尋ねします。	隣接市町として長久手市・みよし市・東郷町を掲載しております。 豊明市についてはご指摘のとおり同じ尾張東部医療圏域の構成市町であり、医療・介護連携の面でのつながりがありますので、掲載については検討します。
48	6	1~10	高齢者の現状分析数値（認知症リスク、IADL等）について、中部・東部・西部の地区単位では、あまり差異が見られないように思います。 一方、各項目の現状を町単位で分析比較した場合、かなり大きな差異があることが分かるかもしれませんが、内容が煩雑で細かくなりすぎます。 計画中に、例えば、「65歳以上及び75歳以上高齢者の人口（割合）」や「高齢者世帯数（割合）」だけでも町単位での掲載があれば、計画に基づきそれぞれの施策（事業）を推進していくうえで、どの地域に課題が多く重点的に実施するべきか等、ある程度予測できるのではと思います。	ご指摘のとおり行政区単位とした場合は内容が煩雑になることから、計画書への掲載は他の項目との兼ね合いも含め考える必要があると考えます。 また、行政区別の高齢者率や高齢者世帯割合については、第7期においても掲載しておりますが、どのデータを使用するか（第7期は2015年国勢調査を使用）を含め検討していきたいと考えています。
49	2	slide46~	・各個別地域ケア会議で挙げられたテーマに関する支え合いの仕組みがSCによって構築されると、包括的に進むように思うので、モデルケースのような案件を基に試行できたらと思う。	個別地域ケア会議には生活支援コーディネーターも参加できるよう各地域包括支援センターには周知していますので、センターとも連携しながら地域の枠を超えた取組の検討を進めていきたいと考えています。
50	6	9	・西部地区の認知症リスク高齢者の割合が高いにことについて、アンケート上の問題でなければ注視して、対応を検討してはどうか。	アンケート調査では、愛知県が作成した認知症チェックリスト13項目の設問を尋ねておりますので、当該質問も含めた項目全体で傾向を分析し、今後の施策の参考にしております。
51	6	23	・②「趣味あり」と「生きがいあり」の差が10ポイント以上あることについて、高齢者がその違いをどのように捉えているかわかれば、地域参加を促進する際のヒントが得られるように思うので地域でその思いを聞きたい。	アンケート調査の結果については、市だけでなく地域包括支援センターややまびこ日進、生活支援コーディネーターそれぞれの立場からご活用いただければと考えます。
52	6	25	・地域や市民活動の担い手不足は、長期的な課題となっており、「参加者として参加したい」が「企画・運営として参加したくない」というアンケート結果にも現れた部分。この運営者側の支援を金銭的にも事務的にも抜本的に補う方法を創っていかないと、慢性的な後継者不足は解消できないように感じる。	今年度からの3年間、愛知県からの事業委託を受けて日進市高齢者移動支援推進事業を実施しており、この中で訪問型サービスDによる補助金制度の検討も行う予定です。また、住民主体の生活支援（ワンコインサービス）やつどいの場も増えており、訪問型及び通所型サービスBによる補助金制度の検討を進めてまいります。

第2期第3回地域包括ケア検討会議（書面会議）委員意見等及び回答一覧

番号	資料番号	ページ	意見等の内容	意見等への回答
53	6	26 30	・「地域の人たちに対してできる手助け」に「特にない」の選択肢があり、「地域の人たちに求める手助け」の中に「特にない」の選択肢がないとこの設問の全体をみるのが難しいように思う。「地域の人たちに求める手助け」の中の「特にない」という選択肢はとても大切な選択肢だったのではないか。P30も同様。	今回のアンケート調査で回答があった範囲の中でアンケート調査の結果をご活用いただければと考えます。
54	6	28	・終末期の医療・療養について話し合ったことがない理由として、「話し合うきっかけがなかったから」の回答が最も多いが、地域で「終活」に関する講話を開催すると、多勢の参加を得ることができる。P27においても「参加したいものがないから」と介護予防に参加しない理由が最も高くなっており、地域のニーズを専門職側が正しく整理できていないところは、改善すべき点として重く捉えて方がよいように思う。	アンケート調査の結果については、市だけでなく地域包括支援センターややまびこ日進、生活支援コーディネーターそれぞれの立場からご活用いただければと考えます。